

2023年度ゼミ7期・2024年度卒論 飯島彩湖さん(JG)

自分の“好き”や“興味関心”を最大限に突き詰められるのが鶴田ゼミの最大の特徴です。追求したいことが明確でなくても、他のゼミ生の発表を聞きながらインスピレーションを受けたり、意見交換を重ねることで、1つの作品が完成します。そのため、小さなことにも目を向け、第三者の視点を受け入れることが大切です。大学生活を何かでかたちに残したいと考えていた私にとって、与えられたものではなく、自分の意志で追求したいものを決め、「情報消費者」から「情報生産者」になるプロセスを学べたのは大きな成長につながりました。決まった型がないからこそその難しさややりがいを通して、ぜひ鶴田ゼミで皆さんにしかできない「問い」を見つけ深めてみてください。

2024年度ゼミ8期 ゼミ長 丸山智義さん(JG)

研究テーマ「中国反スパイ法違反でなぜ一般人が拘束されるのか」

鶴田ゼミは真理の探究にうってつけの環境です。アカデミックな研究をするために必要なプロセスを基礎から丁寧に学び、私たちが日常生活で感じるちょっとしたことへの疑問からグローバルな社会課題までを多角的に考察する力が養われます。このゼミでは先生から課題を課されることはなく、ゼミ生それぞれが興味がある分野(難民、宇宙、海洋資源、海洋ゴミ、臓器移植、ファッション、音楽、抹茶食品など)の研究に励み、それぞれ自分らしさのある質の高いアウトプット、言語化が求められ、ゼミ内での研究テーマの共有を通じて徐々に力をつけることができます。日頃から何かしらに「なぜ」と疑問をもっている方、研究したいことがある方、知的好奇心の旺盛な方におすすすめです。それぞれの個性と能力を伸ばすことができます。

2024年度ゼミ8期 磯辺 那奈さん(JG)

研究テーマ「海底資源は国際社会でどのように共有すべきか」

関心分野を見つけ、それを適切な表現で発信する力を身に付けられるゼミです。ゼミが始まって間もない頃は自分が深めたいテーマに即した問いの設定に苦戦しても、毎週のゼミで少しずつ問いの立て方を学び、最終的にオリジナルな問いを立てられるようになります。また、鶴田ゼミではゼミ内でその問いについて書いたり話したりして表現する機会が豊富にあります。自分が何を伝えたいか理解していても、相手に意図が正しく伝わらなければ意味がありません。そのため、発信方法にも心を配ることで、研究テーマへの理解を深めると同時に、その理解を周囲へ発信する力を高められます。研究テーマの探求という同じ目標に向かって切磋琢磨できる仲間とともに、自分の関心を深め・力を磨く環境が整ったゼミだと思います。

2024年度ゼミ8期 齋藤 美樹さん(JG)

研究テーマ「海に流出した後のゴミの回収」

鶴田ゼミでは決められたテーマの研究をするのではなく、自分の本当に関心のあることを研究できます。おそらく大学生活の中で最も「自分の関心事は何か」を考える時間になると思います。異なる分野を研究しているメンバーとのゼミの時間は毎回新しい発見があり、とても刺激をもらえます。また、ゼミメンバーの前で話す機会が多いので、人前で話すのが苦手でも場数を踏んで、話す力を鍛えることができます。「研究する」ということを基礎から学び、その力を鍛えたい方におすすめてです。

法学部3年演習「国際法研究」・法学部4年卒業論文

卒業生の声①

2017年度ゼミ1期 齋藤 優輔さん(JU)(米国ワシントン大学シアトル校国際関係学部卒業)

鶴田ゼミの大きな特徴として、読解力・文章力・論理的思考力が身につく、また、国際的な視点に立ち、世界的な問題に対する理解を深めることができるという2点が挙げられると思います。まず、ゼミ開始当初は、自分の読解力や文章力をしっかりと鍛えることから始まります。課題図書で指定された範囲を読み、自分の言葉で簡潔にまとめるといったことを反復して行いました。大量の文献を読み込み、それを自分の言葉にするというのはとても大変でしたが、鶴田先生の丁寧な指導と添削のおかげで、文章を読み、書く力がとても鍛えられたと思います。また、その後は国際的な課題に関する疑問を自ら設定し、それについての論文を書いていきます。国内に限らず海外の書物なども引用するため、グローバルな視点で自分のテーマを研究し、国際問題に関して理解を深めていくこととなります。グローバルな課題に関心があり、国際的な視点に立って勉強をしてみたいという人にはとてもおススメのゼミです。鶴田追記: 齋藤さんは本学の2017年度第40回学生懸賞論文(テーマは難民問題)で奨励賞を受賞しました。

2018年度ゼミ2期・2019年度卒論 齋藤 梓さん(JC)(広告代理店勤務)

国際法の観点から、自分の社会問題への関心を研究へと昇華できるゼミです。先生は広い準備で、各学生の多様な興味・関心と国際法を繋げてくださり、研究テーマの問いを立てることすら苦戦していた私も、主体的に自分のペースで研究に向き合い続けられました。一方、ゼミ生同士で毎週お互いの論文についてコメントし合う必要があり、社会問題への視野は広く持たなければなりません。その点で、調べて得ただけの情報を伝えることと、情報を生産することの違いを身を持って持って学んでいきます。社会人になった今の視野や意見の表現力はゼミと卒論で養った私の財産です。ぜひゼミ論文は先生のもとで卒業論文に仕上げることをお勧めします。鶴田追記: 齋藤さんは北極海航路をテーマにした卒論で2019年度卒業論文 優秀賞を受賞しました。

2019年度ゼミ3期・2020年度卒論 三村 夏鈴さん(JU)

研究テーマ「芸術によって政治の意識を高められるか」

3年次のゼミでは問いを立て、問いに対する自分なりの答えを出す練習をし、短い論文を書きます。4年次は、前年の経験をもとに大学生活の集大成として、卒業論文を完成させました。ゼミは先生から教わる時間より、メンバーがお互いの論文を読み、改善点を出し合う時間を中心に進められます。メンバー同士が切磋琢磨して勉強し、知的好奇心が高められる点がこのゼミの特徴です。これをしなければいけないという決まったことはなく、自分がいま気になっていることについて考え、テーマに落とし込み、研究することができると思います。

2019年度ゼミ3期・2020年度卒論 笹井 修太郎さん(JU)

研究テーマ「希少野生動物の組織的な密輸入の現状と対策」

鶴田ゼミでは、レポートではなく、論文を執筆します。自らの関心に即した問いを立て、調査し、まとめる。問いも結論も人それぞれ。自分だけが産み出せるオリジナルな情報、それが論文です。このゼミでは、ゼミ生がお互いにコメントし合いながら、論文の質を高めていきます。そして、論文にとって何より重要なのは「伝わる」こと。「伝わらない」報告には、「難しい」とコメントが付き、対話になりません。そのため、ゼミでは研究成果を発信する力も鍛えられます。一見ハードですが、研究したくて集まった仲間に、先生のお人柄も手伝って、いい雰囲気の研究を進められます。私も、問いを立てたり、「伝わる」論文の執筆に苦心しましたが、最優秀卒業論文賞をいただいたことで、2年間の研究の過程が力になっていることを強く実感しました。研究したいことがある方は鶴田ゼミであなただけの問いに挑戦してください。[鶴田追記: 笹井さんはワシントン条約をテーマにした卒論で2020年度最優秀卒業論文賞を受賞しました。](#)

2020年度ゼミ4期・2021年度卒論 鎌田千景さん(JG)(メーカー勤務)

私達のゼミは、それぞれが異なる分野でのテーマ設定をして研究していたため、自分の関心以外の知識も得ることができました。鶴田先生もゼミ生の自主性を尊重し温かく見守り、行き詰まった際にはヒントを与えてくださるので、自分のペースでしっかりとテーマと向き合うことができます。ゼミ論文を上手に仕上げることも勿論大事ですが、世の中の様々な事象に目を向け気付きを得るというプロセスそのものを経験するだけでも自分の成長に繋がるとゼミを通して実感しました。情報を発信する側になるというのは決して容易なことではありませんが、充実した日々を送れること間違いなしです。是非皆さんも挑戦してみてください。[鶴田追記: 鎌田さんは動物愛護法をテーマにした卒論で2021年度卒業論文優秀賞を受賞しました。](#)

2020年度ゼミ4期 行田海斗さん(JG)(不動産デベロッパー勤務)

研究テーマ「時代の潮流に合わせた新たな知財戦略への転換の必要性」

現代社会における共生を考えるためには、私たちが普段疑うことのない「常識」にひそむ矛盾や思いこみに気づき、それらを打ち破っていく必要があります。鶴田先生のゼミでは、毎日消費する何気ない情報にこだわりや疑問を持つセンスを養うことができると考えています。あなたの「小さな気づき」が社会を変える「大きな気づき」の一步となります。「価値のある情報を発信する側に回り、今、ここにはないものを創造すること」を、学生のうちに経験することは、一生の財産になり得ます。ぜひ挑戦してみてください。

[鶴田追記: 行田さんは2021年度第32回ヤンマー学生懸賞論文で優秀賞を受賞しました。論文のテーマは日本農業の知的財産権保護と国際戦略。](#)

卒業生の声④

2021年度ゼミ5期・2022年度卒論 亀井のいさん(JP)(早稲田大学大学院に進学)

鶴田ゼミはとても自由です。自分の興味関心があること全てが研究対象となります。オリジナルな問いを設定し、自分の設定した問いの答えではなく、問いを追求するためのプロセスをゼミで学ぶことができます。しかし、論文執筆において、自分の世界観だけでは読み手に響く文章は書けません。他のメンバーからの指摘やアドバイスを受けとめて、それを取り込んでいくというプロセスが、このゼミにおける最も肝心な作業であると感じます。情報を発信する側となるのは簡単ではありませんが、この経験は必ず大学時代の大きな学びになると信じています。鶴田ゼミ生として共に頑張りましょう！

鶴田追記: 亀井さんは3年次に2021年度白金法学会論文賞で優秀論文賞を受賞しました。論文のテーマは中国のコロナ対策と次世代技術。卒業時には、2022年度卒業論文 優秀賞を受賞しました。論文のタイトルは「中国人留学生の増加が日本の人材育成に与える課題」。

2021年度ゼミ5期・2022年度卒論 相澤七海さん(JP)(韓国・延世大学大学院に進学)

鶴田ゼミは自分の関心分野を深められるゼミです。3年ゼミでは学期末にゼミ論文を完成させることを目標に、問いの設定、目次の立て方など、論文を作成するうえで基礎となる部分を学びながら、各自の関心分野について研究を深めていくことに多くの時間を費やします。そのため、みんなで1つのことを完成させるということではなく、大学院のような'研究'を深めて行くゼミです。しかし、鶴田先生をはじめ、他の仲間とのブラッシュアップを通じ自分の'研究を客観視'する作業を行うことができます。自律的な学習が求められるため、最初は色々な壁にぶつかると思いますが、それをゼミの仲間と乗り越えることで得られる達成感他ゼミでは味わえないと思います。学部生時代に'関心分野'について考え、深めることのできる機会になります。ぜひ鶴田ゼミで'関心分野'を探索してみてください。

法学部3年演習「国際法研究」・法学部4年卒業論文 卒業生の声⑤

2022年度ゼミ6期・2023年度卒論 古箭 要さん(JG)

自身の興味関心を突き詰めたい人にとって鶴田ゼミは最高の環境と言えます。十人十色の研究テーマがあり、それらを尊重し、率直な意見を交わすことができる環境が整っています。4年次の卒業論文執筆では英語論文に触れるチャンスも多く、自身の立てた問いにいていねいに向き合うことで、質の高い論文を仕上げることができます。壁にぶつかる時もありますが、その産みの苦しみを乗り越えた先の景色を是非味わってみてください。ゼミ対抗スポーツ大会や懸賞論文でもこのような高みを目指すDNAが鶴田ゼミには根付いています。期末レポート・プレゼン程度では言いたいことが収まらないという経験がある人、大学で学んだことに胸を張りたい人、鶴田先生が大好きという人は是非鶴田ゼミへ。[鶴田追記:古箭さんは香港国家安全維持法をテーマにした卒論で2023年度最優秀卒業論文賞を受賞しました。](#)

2022年度ゼミ6期・2023年度卒論 清水里穂さん(JG)(旅行会社勤務)

鶴田ゼミは自分の関心のある事柄を研究し、とことん追求することができる場所です。自分の関心のある事柄に関して問いを立て、研究し、答えを出し、それを論文という一つの作品にまとめます。論文は個々の作業だと思われがちですが、鶴田ゼミでは違います。皆それぞれにテーマを掲げ、発表し合い、意見交換をするため、第三者の視点が入りやすいです。書き手として「情報の伝え方」や読み手として「情報に対して疑問を抱くこと」の力が身に付きます。「大学生活で十分に学び足りない！」と感じていた私が成長できた場所です。大学という学びの場所で、このプロセスを学ぶことができる場所はなかなか無いと思います。皆さんも鶴田ゼミで大学生活をより豊かに過ごし、自分自身を成長させませんか？[鶴田追記:清水さんはオーバーツーリズムをテーマにした卒論で2023年度卒業論文奨励賞を受賞しました。](#)